

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

---2023年8月29日・第87号---

<目次>

●住宅地に巨大物流倉庫はいらない！地元で住民集会開催

■2023年 川崎市教科書採択の報告

▲お知らせコーナー

☆8/30「ワタシタチハニンゲンダ」緊急上映会

☆9/23 ゆめシネマ「オレの記念日」

★編集後記

●住宅地に巨大物流倉庫はいらない！地元で住民集会開催

8月26日(土) 荻宿小学校特別教室で、西加瀬プロジェクトを考える住民集会が開かれました。当日は、地元住民を中心に、中原区や幸区内から多くの参加があり、会場がいっぱいになりました。

集会はまず、住民の会のパワポでの説明を聞いてから、参加者同士での活発な質疑応答、意見交流が行われました。

以下、聞き取りメモで一部を紹介します。

<解体工事が始まった>

・すでに、解体工事が始まっています。

住民の会では、評価書公告前に行われた「工事説明会」が極めて不十分であり、その後、質問事項をまとめて、回答の場をつくるように求めています。が、いまだ応じていない。

・ダイワ側は、汚染物質のデータを、前所有者から引継ぎ把握していたのに、環境アセスメントの段階では公開せず。市の審議会にもデータの提出はしなかった。

そして、5月の工事説明会になって初めて公開し、敷地全体に深刻な汚染物質が埋蔵され、建屋などにアスベストが含まれていることが、はじめてわかった。

被害を受ける地元住民に対して、とても不誠実な対応だ。

・工事現場から道路をはさんで5メートル地点に住んでいる。

工事中は、10分おきに震度3から4の地震が来ている感じだ。

家で仕事をしているのだが、仕事どころではなく逃げ出したい。

10メートルぐらいまで掘って、荏原工場時代のコンクリートの塊など掘り出して、そこで砕いてまた埋めている。

土壌汚染も心配だが、工事の最中にどうやって正確な調査ができるのか。工事差し止めなどの住民訴訟も考えていきたい。

・汚染物質を出したのは、どこなのか。また、実際のボーリング調査のデータが必要だ。

地下水の汚染は大問題だ。その責任は、川崎市にもある。解体工事は進んでいるが、もう止められないと見るのは早計ではないか。

建屋を建設し始めてからでも、止めることはできる。

<川崎市や警察に対して>

・6月24日に、川崎市まちづくり局主催の「西加瀬地区計画案」の公聴会では住民8名が、建設反対や見直しの意見を述べた。

公聴会での住民意見への回答が大幅に遅れて、今も日程未定。川崎市の対応はひどい。

・アスベストの除去工事への不安があり、川崎市環境局に相談したが、担当者が現地に何度も来てくれて、説明も丁寧にしてくれた。

この点では、安心している。

・認可がおおりて、解体工事が始まっている。

貨物トラックなどが1350台入庫・出庫するのだから、決められた道路以外の通行を絶対にさせないように、交通規制を求めていくべきではないか。

住民の側の交渉力が弱い。

<西加瀬地区だけの問題ではない>

・1日で1350台もの貨物車が、市内に一気に増加する。現在でも渋滞している交差点を調べて、物流倉庫ができることで、さらにどれだけ渋滞が発生するのかを明らかにしていけば、広い地域の住民にアピールすることができる。

・川崎市は、西加瀬地区計画では、「良好な市街地環境の形成」を掲げながら、それに明らかに違反する計画を認めた。

これを許せば、どの町でも町壊しが起きうる。全区、全市の大問題だ。

8月20日(日)、川崎市教育委員会議が川崎市総合教育センターで開かれ、今回は来年度からの小学校教科書の採択替えが主に審議されました。

2期目の任期中の教育長以外のメンバーは初めての小学校教科書の採択でしたが、審議では各委員が教科書に目を通し、市民のアンケートも参考にしていることがわかる発言がありました。

特に女性の委員からはジェンダーに関することや性の多様性についての積極的な発言が多くあり、教科書に記載される「家族」の形が画一的であるとの指摘や、疾病を持つ児童・生徒への配慮を求める意見も出されました。

採択替えした理科は、まず実験中の安全指導に関し3社の教科書について議論がありましたが、4年前の採択替えの理由が今回の教科書の改訂で改善されたとのことで、以前使用していた啓林館に戻す事になりました。

採択替えは理科ですが、4年前に教科書の記載内容の一部についての指摘だけで東書に変え、今回も教科書全体の比較検討ではなく数カ所の比較だけで元に戻しました。

このことは、実際に教科書を使って授業することのない教育委員が、すべての学校の教科書採択を「教育委員会がその責任と権限のもと、公正かつ適正に実施する」ことは、そもそも無理なことを証明しているのではないのでしょうか。

教育委員は再任されない限り、小学校と中学校の教科書は任期中にそれぞれ一度しか採択の調査・研究を行いません。

それだけに学校現場の教員と、教育や教科書に高い関心を寄せる市民の意見はより重要です。

市民の取組みとしては、今年も6月から8月まで市内8会場で教科書の見本本が展示されましたが、合計で675名の方が来場し教科書の感想や意見を244件作成しました。

採択会議当日も酷暑のなか78名の方の傍聴参加があり、市民の教科書問題に対する意識の高さを教育委員会事務局と教育委員に示すことが出来ました。

川崎市の教科書採択の会議公開や見本本展示会の運営には課題がありますが、日曜日会議開催や多くの傍聴席の用意、傍聴者一人ひとりへの資料の準備、ヒアリンググループの設置など長年の市民の教科書問題への取組から勝ち取った成果が多くあります。

今年の小学校教科書でも検定意見や付度により、愛国心や政府見解記載の押しつけ・強要が行われています。

また「正しい知識の修得や正解・解答のある課題を教える」教育から「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」への転換としながらも、学習指導要領に問題があるためか、かえって

児童・生徒の発想や思考を誘導しかねない組立てが目につく教科書もありました。

来年度は教科書問題で特に課題となる中学校教科書の採択替えの年にあたります。

市民の立場からの意見により、子どもたちによりよい教科書を手渡すために、来年度も教科書問題の学習会や展示会への参加・教科書アンケートの記入などへのご協力をお願いいたします。

教科書を考える川崎市民の会 畑山裕

▲ お知らせコーナー

☆「ワタシタチハニンゲンダ」緊急上映会

外国人学校に対する官製ヘイト、技能実習生、難民、入管の実態など

外国人差別の本質にせまる

8/30(水)18時半より

一般:500円_学生以下無料

問合せ:090-1458-3102(柴田)

☆ゆめシネマ「オレの記念日」-桜井昌司追悼-

9/23①9時 ②12時 ③15時

①と②のみ監督アフタートークあり。

一般:1000円

障がい者:500円

学生以下:200円

当日:各500円増

申込み:044-433-3003 ゆめホール

cinema@mawasakiyume.com

★ 編集後記

布川事件で有罪判決を受け、再審裁判で無罪を勝ち取った桜井昌司さんが、23日直腸ガンで亡くなりました。76歳。

桜井さんが音楽活動をしていてCDも出しているということを知り、「ライブをやろう」と思い立ったのが3月。李政美さんに連絡を取って頂き、相談するも、病気の状態が思わしくないためライブは無理とのお返事でした。

「ライブが無理なら映画をやる」ということで、9月23日に「オレの記念日」上映を企画し、チラシの入稿を終えたのが8月22日でした。

良くないとは伺っていましたが、まさか追悼上映会となるとは。。

桜井さんは、20歳の時に布川事件で冤罪により殺人犯とされ、29年間を獄中で過ごし、2011年に無罪判決、2021年には国家賠償裁判での完全勝利を勝ち取りました。

ある日突然、身に覚えの無い罪で逮捕され、自白を強要されたあげく起訴されて無期懲役が確定してしまう。自分の身に置き換えたらぞっとする出来事です。

何故このような事件が起きるのでしょうか。

どこまでも希望と明るさを失わず闘い続けた桜井さんの姿を通して「冤罪」に向き合いたい。ちょうど亡くなって1月、命日に開催の上映会です。

どうぞお運びくださいませ。(Y)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/9iUVMLx05q1d?mail=akagixxx%40yahoo.co.jp

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。再度登録致します。

mailmag@newkawasaki.jp